

山行NO	山行NO. 1836
日時	2019.09.07(土)晴・高温
山域	西丹沢＝大室山(1587m)・1543m峰南尾根～犬越路からの1350m峰・南尾根
コース	長泉6:00－用木沢出合7:36－南尾根－1055m峰8:58－キレット－1543m峰(縦走路)10:41－大室山11:06～12:13－犬越路分岐－1350m峰・南尾根入口12:40－南尾根一標高1000m・手製の道標13:47－用木沢出合14:53
標高差	上り 用木沢出合約650m～大室山1587m)＝約937m 下り //
快適度	5(5段階中)上り下りとも藪はない。ルートはきれい
参加者	GT, KH, IK, GM, HT

両南尾根はタマゴダケの山だった

前回8月24日の西丹沢のバリエーション(屏風岩山→畔ヶ丸→上権現山)に続き、今週も西丹沢のバリエーション(南尾根1→大室山→南尾根2)に挑戦。

結論から言うと前回同様に暑さの中、登りも下りも急で、非常に厳しい山行であった。

6時10分にGHさんの車に拾ってもらい、7時30分に登山口の用木沢出合に到着。

そこからすぐに南尾根1を登り始めたが、最初からかなりの急登。

しかし、尾根ははっきりしており、立派な自然林(もみの木)も生い茂っており、登山ルートとしては心地良い。



登りの南尾根1＝モミの巨木多い



標高1055峰

しばらく登っていくと先頭をいく女性陣がタマゴダケを見つけた。

まだ、傘が開いていない色鮮やかな立派なキノコであるが、初めて見た人は食べられない毒キノコ



快適な南尾根・1

の「ベニテングダケ」と思ってしまっただろう。

そこから、さらに登っていくと一般道ではないので、収穫する人もいないのだろうが、タマゴダケの宝庫であった。

そして、当日は私の誕生日ということもあり、下山後は私の自宅で「タマゴダケのバター焼き」で飲み会をやるということになった。

それにしても、男性陣はなかなかタマゴダケがみつけれないのに KH さんは目がいいのか鼻が利くのか（動物的な感覚）収穫したタマゴダケのほとんどを KH さんが見つけていた。

さらに南尾根1を登っていくと一般道に合流。付近には鹿柵があったが、登山道には問題なく出れた。入口の樹木には、赤いペンキで○印があった。そこから大室山に向かう一般道の日当たりがいい場所には、延々とトリカブトの群生地があった。KH さん曰く、トリカブトは鹿が食べないので、群生地になっているとのことであった。

花はやや小ぶりで愛らしい。正式名称は「ヤマトリカブト」。白い菊のような花は、「シロヨメナ」。真っ赤な実をつけた美味しそうな「バライチゴ」も点在。

トリカブトの群生地、木道を通って、山梨百名山の大室山（1587m）に到着。

頂上は丹沢名物のベンチはなかった。時間があるのでゆっくり昼食。中年男性1名、背中が曲がった女性と一緒に女性2名が上って来た。



タマゴダケ



木道を上る

土曜日にしては、静かな山だった。

大室山の頂上で昼食。大汗をかいていたので、ビールは美味かった。食事は、おぼろゴハン、枝豆、ホルモン焼き、キュウリぬか漬け、などなどが回って来る。

私は、食後に立ち上がった時に足が攣ってしまった。

やはり、南尾根1の登りで足が疲労しているようで、後半の下りが心配である。



ヤマトリカブトの群生地



大室山頂上



大室山頂上での昼食



足が攀った私

小一時間休憩し下山。下山ルートは、犬越路からの尾根の標高約1350m峰の南尾根。長い峰なので入り口の特が難しい。1350m峰まで一般道を下ったが、登りでは見られなかった雪のない富士山を十分に展望することができた。



1350m 地点から南尾根 2 のバリエーションルートに突入。下りの南尾根 2 は岩が多くて滑り易い所

も多く、気の抜けない緊張した下りが続いた。途中、このルートを使う登山者が結構いるのか、親切にも手製の道標があった。

途中、このルートを使う登山者が結構いるのか、親切にも手製の道標があった。

さらに、1時間程下り、登り口の用木沢出合に無事到着。帰りに温泉で一汗流し、拙宅でタマゴダケのバター焼きに舌つづみをうち、厳しい山行を締めくくった。



下りの富士山の眺望



南尾根 2 の手製道標



タマゴダケ



タマゴダケのバター焼き



GMさんの誕生日会



